

- コース1 武蔵境駅～武蔵野市役所コース
- コース2 武蔵野市役所周辺コース
- コース3 三鷹駅～武蔵野市役所コース
- コース4 武蔵野市役所～西武柳沢駅コース

戦争遺跡に関する説明板がある所



西東京市
向台町三丁目 田無第四中学校



散華乙女の記念樹碑
(武蔵野大学構内)

1944(昭和19)年12月3日、学徒勤労動員により中島飛行機武蔵製作所へエンジンの部品作りに出動していた武蔵野女子学院高等女学校の生徒は空襲に遭ったため、急いで母校に戻り校庭の防空壕に避難した。しかし、不幸にもそのうちの一人に爆弾が直撃、4人の女生徒の命を一瞬にして奪った。戦後、当時の校長がその場所に土を盛り、哀悼の意をこめ「秦椿」を植樹した。33回忌にあたる1978(昭和53)年、学校と同窓生の手によって建立されたのが「散華乙女の記念樹碑」である。毎年12月3日前後には慰霊祭が続けられている。



爆撃の目印とされた境浄水場
日本最大規模(2014(平成26)年 現在)の縦連ろ過方式浄水場。アメリカ軍の空襲が始まると浄水場は中島飛行機工場に爆弾を落とすための目印として利用された。



爆撃で傷ついた墓石
旧中島飛行機製作所の南に位置していた源正寺境内には爆撃によりえぐられてしまった墓石が残されている。戦争の悲惨さを伝えるものとしてご遺族の意向によりそのままの形で残されている。



延命寺に展示された爆弾
武蔵野女子学院付近に落下した250kg爆弾の破片が保存展示されているほか、戦争犠牲者の名を台座に記す平和観音がある。



世界連邦平和像
北村西望作。世界連邦参加各国の石48枚を組み合わせた台座の中心には、太平洋戦争でなくなった方、旧中島飛行機武蔵製作所で作られた方々の名前が記されている。(三鷹駅北口ロータリー正面)



井の頭公園のアカマツ
井の頭公園のアカマツの木にはハート型に皮を切り取られた痕跡が残っているものがある。これは戦争中、アカマツの樹皮をはがし、V字に切りつけ航空燃料として利用しようとするマツヤニを採取した跡である。



中島飛行機武蔵製作所 爆撃照準点
2018年、都立公園が東側に拡張された。そのエリアの北に円形広場ができた。ここは、中島飛行機武蔵製作所のほぼ中央に位置し、爆撃の際には爆撃照準点として狙われた場所に近接している。公園整備に合わせ、中島飛行機武蔵製作所と空襲に関する大型説明板5枚が新たに設置された。



中島飛行機武蔵製作所の全景(1944年11月7日、米軍撮影)

旧中島飛行機武蔵製作所

スタート
スタート・ゴール
ゴール



武蔵野市立第四中学校
戦災を受けた旧中島飛行機青年学校の施設を慶応大学医学部が利用し、その後、改修して武蔵野市立第四中学校として1953(昭和28)年に開校した。正門前には説明板が設置されている。

現在の武蔵野市は、かつて「戦場」だった！

日本有数の巨大軍需工場「中島飛行機武蔵製作所」は、最も重要な爆撃目標だった！

現在の武蔵野市は、日本本土空襲において注目すべき場所であった。1944(昭和19)年7月、マリアナ諸島サイパン島を占領したアメリカ軍は、その後、グアム島、テニアン島も占領し、そこにB29戦略爆撃機の基地を建設する。11月24日、サイパン島を飛び立ったB29、111機が向かった先は、東京都北多摩郡武蔵野町、すなわち現在の武蔵野市にあった日本有数の航空エンジン製造工場「中島飛行機武蔵製作所」であった。この日、工場内では50名以上が犠牲となり、また東京各所に爆弾が投下され、工場内外で合計200名以上が犠牲となった。この1944年11月24日から翌年8月15日の「終戦」まで、日本全国の都市という都市が空襲を受けた。その犠牲者は数十万人に及んだ。その始まりが、ここ武蔵野への空襲だったのである。

この地図の作成にあたっては、国土院地理院の承諾を得て、地図利用の1万分の1地形図及び数値地図2500(空襲データ)を使用したものである。(著作権等 平成22年製 縮尺210-98号)